参考資料8　欠席される委員のご質問・ご意見への回答

［飯田俊夫委員］

No.	箇所	ご意見	回答
(1)	資料1 P5～7	高齢単身者や外国人の増加に伴い分別対象品目はわかりやすいように限定すべきと考える。 また、わかりやすいPR・啓発が重要であり、不適物を見せて、なぜそれが出せないのかなど、よく理解してもらうことも大切である。	モデル地区におけるご意見等も踏まえるとともに、高齢者の方や外国人の方にもわかりやすく、実際に分別しやすい仕組みとなるよう、検討を進めてまいります。 また、周知啓発にあたり、イラストや写真などを活用するなど工夫してまいります。
(2)	資料2 P6～9	千葉市民は指定袋に慣れており、プラスチック資源の指定袋も定着すると思う。わかっていても守らない市民もいるので可燃ごみ等と完全に違うということを働きかけるべきである。	ごみと資源の違いを理解していただけるよう分別排出ルールについて、丁寧かつわかりやすく周知し、プラスチックの分別・資源化について働きかけてまいります。
(3)	資料2 P13他	リサイクルの手法と、どのように資源循環していくかを周知することで、市民の分別へのモチベーションを高めていくことが肝要である。 リサイクル技術が進歩しているので、市民に対してリサイクル手法の違いを理解してもらう取組みが重要となる。	リサイクル手法についての情報を引き続き収集するとともに、再商品化ルート選定後、市民に本市のリサイクルルートで用いるリサイクル手法についてわかりやすく周知してまいります。
(4)	資料2 P14～15他	プラスチックが確実に再商品化されるように、再商品化事業者と綿密な調整をしていくことが必要である。自治体側ではリサイクル処理の支障となる異物を低減させ、品質を保つ努力が求められる。	有意義な再商品化が行われるよう、リサイクルルートについて検討を進めるとともに、プラスチック資源の品質管理に留意してまいります。
(5)	資料2 P14～15	リサイクルルートは複数確保して安定化させることも選択肢となると考える。	リサイクルルートの検討に際しては、リスク管理等も含めて多様な視点から検討を進めてまいります。
(6)	資料2 P16	新たな分別収集を実施するには、追加的なコストがかかる。持続的に分別ができる環境を整えることが大切であり、時間軸も見据えながらしっかり議論すべきである。	事業継続性も踏まえた仕組みづくりについて検討してまいります。
(7)	資料2 P17～18	パッカー車は車両の納入に約2年間がかかることから、準備を進めるにあたり、十分な期間を見込むことが必要である。	車両確保に必要な期間を踏まえて、スケジュールを検討します。
(8)	資料2 P20	リチウム電池等がプラスチック資源に混入するとリサイクル施設に甚大な悪影響が発生する。 施設での発火事故による修理及び修繕費用の問題、何より市民のリサイクル意識を高める為にも、ぜひリチウム電池対策の検討を進めてもらいたい。	リチウム電池等の資源化対策については、プラスチック資源の品質管理と、市民意識のさらなる向上の点等に留意しながら検討を進めてまいります。